

【出品目録】

# ゴッホ展

没後 120年

2011年(平成23年) 1月1日(土・祝)[元日]～2月13日(日)

◆休館日/1月17日(月)、1月31日(月)のみ ◆開館時間/午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

◆主催/九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TNC テレビ西日本、TVQ 九州放送  
 ◆共催/(財)九州国立博物館振興財団、STS サガテレビ、KTN テレビ長崎、TKU テレビ熊本  
 ◆特別協賛/第一生命保険、損保ジャパン  
 ◆協賛/味の明太子ふくや、西日本鉄道、日本写真印刷、(財)福岡文化財団 ◆企画協力/ファン・ゴッホ美術館、クレラー＝ミュラー美術館 ◆特別協力/太宰府天満宮、積水ハウス、竹中工務店 ◆協力/九州大学、西鉄旅行、日本通運、セコム、エールフランス航空、KLM オランダ航空

VAN GOGH  
MUSEUM

Kröller  
Müller  
MUSEUM

第一生命

損保ジャパン

■出品番号は図録の番号と一致しますが、展示の順序とは一致しません。

■都合により展示作品を変更する場合があります。

※VGM = ファン・ゴッホ美術館(フィンセント・ファン・ゴッホ財団) Van Gogh Museum, Amsterdam(Vincent van Gogh Foundation)  
 ※KMM = クレラー＝ミュラー美術館 Kröller-Müller Museum, Otterlo

5th

KYUSHU NATIONAL MUSEUM

九州国立博物館



《灰色のフェルト帽の自画像》(部分) 1887年 ファン・ゴッホ美術館(フィンセント・ファン・ゴッホ財団)  
 ©Van Gogh Museum, Amsterdam (Vincent van Gogh Foundation)

## 第1章：伝統;ファン・ゴッホに対する最初期の影響

フィンセント・ファン・ゴッホは早くからバルビゾン派やフランスの写実主義、そしてオランダのハーグ派といった画家たちの作品に親しみ、彼らの作品をお手本にしながら、初期オランダ時代の絵画を作り上げていった。その後、次々と新しい芸術に触れ、彼の作風は大きく変化した。それでもなお彼らの教えは生涯を通してファン・ゴッホの中に

大切な位置を占め続けた。とりわけモチーフに対する真摯で率直な取り組みは、終始ファン・ゴッホの芸術の根幹を占めている。この第1章に最晩年の作品1点が陳列されているのは、最初期の作品と比較することにより、ファン・ゴッホの中に潜む一貫性と、わずかな期間に彼が成し遂げた画家としての飛躍との両方を示すためである。

出品番号	作家名	作品名	制作年/制作地	寸法(縦×横 cm)	材質/技法	所蔵
1	フィンセント・ファン・ゴッホ	秋のポプラ並木	1884年10月末、ニューネン	99.0 × 66.0cm	パネルに貼ったキャンヴァス / 油彩	VGM
2	フィンセント・ファン・ゴッホ	曇り空の下の積み藁	1890年7月、オーヴェール＝シュール＝オワーズ	63.3 × 53.0cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
3	テオドール・ルソー	ジュラ山脈高地を下る牛	1834-35年頃	114.0 × 59.8cm	キャンヴァス / 油彩	メスダッハ美術館
4	ジャン＝フランソワ・ミレー	漁師の妻	1848年頃	47.0 × 39.0cm	キャンヴァス / 油彩	メスダッハ美術館
5	ギュスターヴ・クールベ	マグロンスの地中海風景	1858年	92.0 × 135.0cm	キャンヴァス / 油彩	VGM
6	シャルル・ドービニー	四月の月(赤い月)	1875年	65.0 × 110.0cm	パネル / 油彩	メスダッハ美術館
7	ウィレム・ルーロフス	コルテンホーフ近くの湖	1880年頃	28.4 × 44.8cm	パネルに貼ったキャンヴァス / 油彩	メスダッハ美術館
8	ヨゼフ・イスラエルス	夕暮れ	1890年頃	58.0 × 84.0cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
9	テオフィール・デ・ボック	河の景観	1900年頃	109.0 × 127.3cm	キャンヴァス / 油彩	VGM

## 第2章：若き芸術家の誕生 27歳～30歳

ファン・ゴッホはおおむね独学の芸術家である。彼は初期の頃から著名な巨匠たちの版画や、技法書に掲載されている素描などを模写することによって自らを鍛えた。芸術家にとって素描力は基本中の基本であり、画家として成功するための不可欠の要素であるということを知り、強く意識していた。そのため彼は素描の訓練に没頭し、より強い表現力を獲得するために画材についても試行錯誤を繰り返した。また彼は、当時

の雑誌に掲載されていた版画の図版を集めており、素描の制作の際にはそれを大いに参照している。

画家を志してから間もなく、彼は親戚でハーグ派を代表する画家アントン・モーヴから指導を受けたが、その際、技術や画材について極めて多くのことを学んでいる。

出品番号	作家名	作品名	制作年/制作地	寸法(縦×横 cm)	材質/技法	所蔵
10	フィンセント・ファン・ゴッホ	ヤーコブ・マイヤーの娘 (バルグの教則本中のホルバインの素描による)	1880年10月 - 1881年4月、エッテン	42.6 × 30.5 cm	網目紙 / 鉛筆	KMM
11	シャルル・バルグ【素描の練習】 (1868-70年、パリ)の挿絵(na.10)	ヤーコブ・マイヤーの娘 (ホルバインによる)	1868-70年			ファン・ゴッホ美術館図書室
12	フィンセント・ファン・ゴッホ	掘る人(ミレーによる)	1880年10月、クエム	37.5 × 61.5cm	網目紙 / 鉛筆、黒チョーク	KMM
13	ジャン＝フランソワ・ミレー	掘る人	1855-56年	23.5 × 39.5cm	エッチング	VGM
14	フィンセント・ファン・ゴッホ	掘る人	1881年9月、エッテン	44.3 × 33.7cm	網目紙 / 黒チョーク、灰色の淡彩、不透明水彩	KMM
15	フィンセント・ファン・ゴッホ	掘る人	1881年9月、エッテン	51.4 × 31.0cm	簀の目紙 / 黒チョーク、淡彩、ペンと薄めたインク、不透明水彩、木炭の下書きの跡	KMM
16	フィンセント・ファン・ゴッホ	掘る人	1881年10月、エッテン	62.2 × 46.8cm	簀の目紙 / 木炭、黒と緑のチョーク、透明と不透明水彩	VGM
17	フィンセント・ファン・ゴッホ	籠を持つ種まく人	1881年9月、エッテン	62.0 × 47.2cm	簀の目紙 / 黒チョーク、茶色と灰色の淡彩、不透明水彩、白の不透明水彩によるハイライト	KMM
18	フィンセント・ファン・ゴッホ	種まく人	1881年9-10月、エッテン	55.9 × 33.2cm	簀の目紙 / 木炭、黒チョーク	KMM
19	フィンセント・ファン・ゴッホ	炉端の少女	1881年10-11月、エッテン	44.5 × 57.4cm	簀の目紙 / 黒チョーク、木炭、灰色と茶色の淡彩、不透明水彩、青と白のチョーク、ペンとインク	KMM

20	フィンセント・ファン・ゴッホ	麦藁帽子のある静物	1881年11月末-12月中旬、 ハーグ	36.5×53.6cm	キャンヴァスに貼った紙 / 油彩	KMM
21	アントン・モーヴ	オランダ風納屋と差し掛け小屋	1875年頃	32.0×44.0cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
22	アントン・モーヴ	フリース近郊	1880年頃	32.2×44.9cm	パネルに貼ったキャンヴァス / 油彩	メスダッハ美術館
23	フィンセント・ファン・ゴッホ	杖を持つ老人	1882年9-11月、ハーグ	50.0×30.5cm	水彩紙 / 鉛筆	VGM
24	フィンセント・ファン・ゴッホ	杖を持つ老人	1882年11月6-8日、ハーグ	61.0×39.5cm	リトグラフ	VGM
25	フィンセント・ファン・ゴッホ	防水帽を被ったあごひげの 漁師	1883年1月末、ハーグ	47.2×29.4cm	水彩紙 / 鉛筆、黒のリトグラフ用クレヨン、筆とペンと黒インク、白・ピンク・赤みがかった茶色の不透明水彩、灰色の淡彩、スクラッチ	VGM
26	フィンセント・ファン・ゴッホ	鶏に餌をやる女	1883年4-5月、ニューネン	61.0×33.6cm	網目紙 / 鉛筆、灰色の淡彩、筆と薄めた黒の版画用インク、インクと混ぜた白の油絵具、白の不透明水彩	KMM
27	マシュー・ホワイト・ドリラー (1837-1888)の原画による	石炭を掘り出す坑夫	『グラフィック』(1871年1月28日)の挿絵	22.3×29.7cm	木口木版	VGM
28	ホレス・ハラル(活動時期1844-1891)(ヘンリー・ウッズ[1846-1921]の原画による)	義勇兵の帰還	『グラフィック』(1873年3月1日)の挿絵	29.8×22.3cm	木口木版	VGM
29	ウィリアム・スモール(1843-1929)の原画による	庶民の素顔。 「イギリスのならず者」	『グラフィック』(1875年6月26日)の挿絵	29.8×22.5cm	木口木版	VGM
30	ジョゼフ・ナッシュ(1808-1878)の原画による	炭坑での労働1 (困難な調査。〈切羽〉の端で。採掘場の先端-石炭を計る。やっかいな通路)	『グラフィック』(1878年9月21日)の挿絵	23.7×30.8cm	木口木版	VGM
31	ウィリアム・ヘイスマン・オヴァラ ンド(1851-1898)の原画による	サン・ゴタル・トンネルの 完成。トンネル中央における アイローロ側とゲシュネ ン側の坑夫の出会い。2月 29日、日曜日、午前9時	『イラストレイティッド・ロン ドン・ニュース』(1880年3月 13日)の挿絵	26.6×21.5cm	木口木版	VGM
32	ジョン・プロクター(1836-1914)の原画による	農夫と借地人のスケッチ	『イラストレイティッド・ロン ドン・ニュース』(1880年12 月4日)の挿絵	28.9×21.2cm	木口木版	VGM
33	ウジェーヌ・フロマン(1844-1900)(アルフレッド・エドワード・イームズリー[1848-1918]の原画による)	羊毛工場での労働	『イラストレイティッド・ロン ドン・ニュース』(1883年8月 25日)の挿絵	29.7×23.0cm	木口木版	VGM
34		エドウィン・エドワーズの 銅版画の複製	フランスの雑誌の挿絵	26.0×17.6cm	木口木版	VGM
35		パースペクティヴ・フレーム (レプリカ)		480×684/h.2500cm		VGM

### 第3章：色彩理論と人体の研究—ニューネン 30歳~32歳

1883年の暮れにニューネンに移住した頃には、ファン・ゴッホはすでに一人前の素描家となっており、絵画に向かうべき時が来ていると感じ始めていた。1884年の春から夏にかけて彼はドラクロワの色彩理論を学び、それに基づいて静物や農民の頭部の習作を試みている。その努力は《じゃがいもを食べる人々》という作品に結実し、この傑作のイメー

ジを友人や知人に伝えるために、彼はリトグラフを制作した。それに対する友人たちの反応は否定的で、ファン・ゴッホを落胆させたが、一方で人物画を描く上で習作がどれほど大切かということ強く思い知らされた。再びドラクロワに学んだ彼は、小画面の人物画を試みた後、働く農民の姿を大画面の中に表現するようになる。

出品番号	作家名	作品名	制作年/制作地	寸法(縦×横 cm)	材質/技法	所蔵
36	フィンセント・ファン・ゴッホ	木こりたち	1883年12月-1884年1月、 ニューネン	35.0×44.6cm	網目紙 / 黒チョーク、透明と不透明水彩	KMM
37	フィンセント・ファン・ゴッホ	沼沢地の松の木	1884年4月、ニューネン	35.8×45.0cm	網目紙 / 鉛筆、ペン、筆と茶色のインク	VGM
38	フィンセント・ファン・ゴッホ	女の頭部	1884年11月-1885年5月、 ニューネン	37.9×28.4cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
39	フィンセント・ファン・ゴッホ	白い帽子を被った女の頭部 (ホルディーナ・デ・フロート)	1884年11月-1885年5月、 ニューネン	44.0×35.9cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
40	フィンセント・ファン・ゴッホ	籠いっぱいじゃがいも	1885年9月、ニューネン	44.5×60.5cm	キャンヴァス / 油彩	VGM
41	フィンセント・ファン・ゴッホ	ビールジョッキ	1885年9-10月中旬、ニュー ネン	31.5×42.5cm	キャンヴァス / 油彩	VGM
42	シャルル・ブラン	『素描技法事典』	A:1867年、パリ B:1870年、パリ	30.5×23.5×5.0cm 28.0×20.0×5.0cm		ファン・ゴッホ美術館図書室
43	シャルル・ブラン	『わが時代の美術家たち』	1876年、パリ	25.5×18.0×5.0cm		ファン・ゴッホ美術館図書室
44	ジャン・ジグー	『わが時代の美術家たち についての四方山話』	1885年、パリ	18.0×12.0×2.5cm		ファン・ゴッホ美術館図書室
45	アルマン・カサージュ	『水彩概論』	1885年、パリ	28.0×19.0×3.5cm		ファン・ゴッホ美術館図書室
46	テオデュール・リボ	卵のある静物	1865-75年頃	53.0×92.0cm	キャンヴァス / 油彩	VGM
47	アントン・ファン・ラッパルト	織工	1884年	26.3×35.3cm	パネルに貼ったキャンヴァス / 油彩	VGM
48	アントン・ファン・ラッパルト	紡績工場の労働者	1890年頃	45.0×25.5cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
49	フィンセント・ファン・ゴッホ	じゃがいもを食べる人々	1885年4月、ニューネン	28.4×34.1cm	網目紙 / リトグラフ	KMM
50	フィンセント・ファン・ゴッホ	シャベルを持つ農婦	1885年5-6月、ニューネン	34.7×21.2cm	簀の目紙 / 黒チョーク	KMM
51	フィンセント・ファン・ゴッホ	箒を持つ女	1885年5-6月、ニューネン	34.7×20.8cm	簀の目紙 / 黒チョーク	KMM
52	フィンセント・ファン・ゴッホ	炉端で働く女	1885年7-8月、ニューネン	43.8×23.6cm	網目紙 / 黒チョーク、升目の跡	KMM
53	フィンセント・ファン・ゴッホ	刈る人	1885年7-8月、ニューネン	44.3×56.2cm	網目紙 / 黒チョーク、灰色の淡彩、白の不透明水彩、定着剤の跡、升目の跡	KMM

54	フィンセント・ファン・ゴッホ	刈る人	1885年7-8月、ニューネン	44.7×28.3cm	網目紙 / 黒チヨーク、定着剤の跡、升目の跡	KMM
55	フィンセント・ファン・ゴッホ	刈る人	1885年7-8月、ニューネン	56.1×37.8cm	網目紙 / 黒チヨーク、灰色がかかった白の不透明水彩	KMM
56	アントン・ケルシュマークシュ	ニューネンのアトリエの図面がついたヨハン・ブリデ宛の手紙	1914年6月23日付	27.4×20.8cm		VGM

#### 第4章：パリのモダニズム 33歳～34歳

アントワープで2ヶ月を過ごした後、ファン・ゴッホは1886年2月にパリに移住した。パリではコルモンの画塾に通いながら、同居させてもらった画商の弟テオのアパートの部屋で、生きたモデルや石膏像の素描を行い懸命に勉強した。この時期に描かれた静物画を見ると、彼の色彩はすでに明るくなり始めている。彼はドラクロワの色彩理論を十分に習得し、それを実践に移すだけの技備を手に入っていた。

パリにおいてファン・ゴッホは数多くの手法や様式を試み、ルーヴルなどで古典的な巨匠たちに学ぶ一方、印象派や次の世代の若い芸術家たちと交流し、大きな影響を受けた。彼はまた、日本の浮世絵版画が持つ強烈な色彩、大胆な構図、そして奇妙なトリミングにも興味を抱き、模写を試みた。

出品番号	作家名	作品名	制作年/制作地	寸法(縦×横 cm)	材質/技法	所蔵
57	フィンセント・ファン・ゴッホ	座る少女の習作、人体模型とヴィーナス	1886年10月-1887年1月、パリ	47.5×62.0cm	糞の目紙 / 黒チヨーク	VGM
58	フィンセント・ファン・ゴッホ	ひざまずく人体模型	1886年春、パリ	35.5×26.5cm	厚紙 / 油彩	VGM
59	作者不詳	ひざまずく人体模型の小像	20世紀前半 *ファン・ゴッホ所蔵品と同型のコピー	130×220×15.0cm	石膏	VGM
60	フィンセント・ファン・ゴッホ	バラとシャクヤク	1886年6月、パリ	59.8×72.5cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
61	フィンセント・ファン・ゴッホ	花瓶のヤグルマギクとケシ	1887年夏、パリ	80.0×67.0cm	キャンヴァス / 油彩	トリトン財団
62	アンリ・ファンタン=ラトゥール	静物(プリムラ、梨、ザクロ)	1866年頃	73.0×59.5cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
63	ジャン=フランソワ=ラファエリ	野の花	1895-1900年頃	80.6×70.6cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
64	アーネスト・クオスト	タチアオイの咲く庭	1900年以前	42.0×54.0cm	パネル / 油彩	VGM
65	フィンセント・ファン・ゴッホ	セーヌの岸辺	1887年5月中旬-7月中旬、パリ	32.0×46.0cm	キャンヴァス / 油彩	VGM
66	フィンセント・ファン・ゴッホ	ヒバリの飛び立つ麦畑	1887年6月中旬-7月中旬、パリ	53.7×65.2cm	キャンヴァス / 油彩	VGM
67	フィンセント・ファン・ゴッホ	マルメロ、レモン、梨、葡萄	1887年9-10月、パリ	48.9×65.5cm	キャンヴァス / 油彩	VGM
68	カミュー・ピサロ	虹	1877年	52.9×81.5cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
69	クロード・モネ	ヴェトゥイユ	1879年	65.0×92.5cm	キャンヴァス / 油彩	トリトン財団
70	クロード・モネ	ポール=ドモワの洞窟	1886年	65.0×83.0cm	キャンヴァス / 油彩	茨城県近代美術館
71	アルフレッド・シスレー	モレのポプラ並木	1888年	54.0×73.0cm	キャンヴァス / 油彩	吉野石膏株式会社(山形美術館に寄託)
72	アルフレッド・シスレー	モレ近くのロワン川の土手	1892年	73.0×92.0cm	キャンヴァス / 油彩	トリトン財団
73	ギュスターヴ=カイユボット	バルコニー越しの眺め	1880年	65.6×54.9cm	キャンヴァス / 油彩	VGM
74	アドルフ=ジョセフ=モンティセリ	女の肖像	1871年頃	46.5×38.0cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
75	アドルフ=ジョセフ=モンティセリ	白いグリフォン犬	1880年頃	63.0×47.0cm	パネル / 油彩	KMM
76	フィンセント・ファン・ゴッホ	レストラン・シュ・パタイユの窓	1886-87年冬、パリ	54.0×39.8cm	本来は青みがかかった灰色の糞の目紙 / ペンと茶色(本来は黒)のインク、青・黄・オレンジ・白のチヨーク	VGM
77	フィンセント・ファン・ゴッホ	カフェにて (「ル・タンブラン」のアゴスティーナ・セガトリー)	1887年1-3月、パリ	55.5×47.0cm	キャンヴァス / 油彩	VGM
78	フィンセント・ファン・ゴッホ	自画像	1887年3-6月、パリ	41.0×33.0cm	厚紙 / 油彩	VGM
79	フィンセント・ファン・ゴッホ	灰色のフェルト帽の自画像	1887年9-10月、パリ	44.5×37.2cm	綿布 / 油彩	VGM
80	ジャン=フランソワ=ラファエリ	退役軍人たち	1884年頃	56.8×39.9cm	パネル / 油彩	VGM
81	ジョルジュ=スーラ	オンフルールの港の入口	1886年	46.0×55.0cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
82	ポール=シニャック	ボワ=コロンプ近くの鉄道乗換駅	1885年	46.5×65.1cm	キャンヴァス / 油彩	VGM
83	ポール=シニャック	ポルトリュエの突堤	1888年	46.0×65.0cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
84	アンリ=ド=トゥルーズ=ロートレック	テーブルの若い女(白粉)	1887年	56.0×46.0cm	キャンヴァス / 油彩	VGM

#### 第5章：真のモダン・アーティストの誕生—アルル 35歳～36歳

1888年2月にアルルに移ったファン・ゴッホは、この南仏の町で、あの誰もがファン・ゴッホと認める独自の様式に到達する。それまでに彼が吸収したあらゆる要素が、このアルルで一気に開花し、ファン・ゴッホは真のモダン・アーティストとなる。さらに、1888年10月後半から12月末まで、9週間にわたったポール・ゴーギャンとの緊密な共同生活と制作は、互いの芸術に少なからぬ影響を及ぼしただけでなく、

同じ粗いジュート布を使って描くなど、画材の共同使用なども行っていたことが分かっている。

ゴーギャンとの共同生活は、ファン・ゴッホの耳切事件という悲劇によって突然幕を下ろすが、二人の交流はその後も手紙を通して続けられた。

出品番号	作家名	作品名	制作年/制作地	寸法(縦×横 cm)	材質/技法	所蔵
85	フィンセント・ファン・ゴッホ	じゃがいものある静物	1888年2-3月、アルル	39.5×47.5cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
86	フィンセント・ファン・ゴッホ	糸杉に囲まれた果樹園	1888年4月、アルル	64.9×81.2cm	キャンヴァス / 油彩	KMM

87	フィンセント・ファン・ゴッホ	サント＝マリ＝ド＝ラ＝メールの風景	1888年6月1-3日、サント＝マリ＝ド＝ラ＝メール	64.2×53.0cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
88	フィンセント・ファン・ゴッホ	緑の葡萄畑	1888年10月3日頃、アルル	73.5×92.5cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
89	フィンセント・ファン・ゴッホ	アルルの寝室	1888年10月、アルル	72.0×90.0cm	キャンヴァス / 油彩	VGM
90	フィンセント・ファン・ゴッホ	ゴーギャンの椅子	1888年11月20日頃、アルル	90.5×72.0cm	目の粗いジュート布 / 油彩	VGM
91	フィンセント・ファン・ゴッホ	種まく人	1888年11月、アルル	32.0×40.0cm	キャンヴァス / 油彩	VGM
92	フィンセント・ファン・ゴッホ	ある男の肖像	1888年12月1-15日、アルル	65.3×54.4cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
93	フィンセント・ファン・ゴッホ	タマネギの皿のある静物	1889年1月初め、アルル	49.6×64.4cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
94	フィンセント・ファン・ゴッホ	あおむけの蟹	1889年1月、アルル	38.0×46.5cm	キャンヴァス / 油彩	VGM
◎95	フィンセント・ファン・ゴッホ	黄色い家の前の公園と池	1888年4月後半、アルル	32.0×50.1cm	網目紙 / 鉛筆、ペン、革ペンと茶色のインク	VGM
◎96	フィンセント・ファン・ゴッホ	野原と家	1888年5月最初の週、アルル	25.8×34.9cm	網目紙 / 鉛筆、ペン、革ペンと茶色のインク	VGM
◎97	フィンセント・ファン・ゴッホ	小屋のある風景	1888年5月最初の週、アルル	34.8×25.7cm	網目紙 / 鉛筆、ペン、革ペンと茶色・紫のインク	VGM
◎98	フィンセント・ファン・ゴッホ	道ばたのアザミ	1888年8月、アルル	24.4×32.0cm	網目紙 / 鉛筆、ペン、革ペンと茶色のインク	VGM
100	ポール・ゴーギャン	ブルターニュの少年と鴛鴦	1889年	92.0×73.0cm	キャンヴァス / 油彩	エイアイジー・スター生命保険株式会社
101	エミール・ベルナール	ふたりのブルターニュの少女のいる風景	1892年	114.3×81.3cm	パネルに貼った厚紙 / 油彩	トリトン財団
102	歌川国芳	川を渡る女性	1847-48年	38.0×26.0cm	多色刷木版	VGM
103	歌川広重	五十三次名所圖繪 三十九 岡崎	1855年	36.0×23.0cm	多色刷木版	VGM
104	歌川広重	五十三次名所圖繪 四十二 宮	1855年	36.0×23.0cm	多色刷木版	VGM
105	豊原国周	隅田川夜ノ渡シ之図	1855年	38.0×26.0cm	多色刷木版	VGM
106	歌川国貞	花源氏夜梯 (はなげんじよるのおもかげ)	1861年	38.0×25.0cm	多色刷木版	VGM
107	作者不詳	新版子供遊び	明治時代	36.5×25.0cm	多色刷木版	VGM

## 第6章：さらなる探求と様式の展開—サン＝レミとオーヴェール＝シュル＝オワーズ 36歳～37歳

サン＝レミとオーヴェール＝シュル＝オワーズにおいて、ファン・ゴッホの技術は大きく変化せず、それまでの様式と筆遣いによって制作を続けた。アルル時代に比べると、色彩はより控えめなものになっている。サン＝レミの療養院で、彼は尊敬する芸術家たちの作品を模写し、再びドラクロワを手本に制作している。ミレーの《野良仕事》を独特の色

彩で翻訳した作品は、強烈な青と黄色を特徴としているが、互いに引き立て合うこの補色の組み合わせは彼がドラクロワから学んだものである。オーヴェール＝シュル＝オワーズで亡くなる直前2ヶ月間にファン・ゴッホが描いた絵画や素描多数に見られる独特のうねるような筆遣いは、死後彼の代名詞として広く知られるようになった。

出品番号	作家名	作品名	制作年／制作地	寸法(縦×横 cm)	材質／技法	所蔵
108	フィンセント・ファン・ゴッホ	麦を束ねる人(ミレーによる)	1889年9月、サン＝レミ	44.5×32.0cm	キャンヴァス / 油彩	VGM
109	フィンセント・ファン・ゴッホ	亜麻を刻む農婦 (ミレーによる)	1889年9月、サン＝レミ	40.5×26.5cm	キャンヴァス / 油彩	VGM
110	ジャック＝アドリアン・ラヴィエ イユ(ミレーの原画による)	野良仕事	1852年	43.6×67.5cm	木口木版	VGM
111	フィンセント・ファン・ゴッホ	サン＝レミの療養院の庭	1889年5月、サン＝レミ	91.5×72.0cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
112	フィンセント・ファン・ゴッホ	鳶の絡まる幹	1889年7月、サン＝レミ	49.0×64.7cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
113	フィンセント・ファン・ゴッホ	溪谷の小道	1889年12月、サン＝レミ	73.2×93.3cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
114	フィンセント・ファン・ゴッホ	夕暮れの松の木	1889年12月、サン＝レミ	91.5×72.0cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
115	フィンセント・ファン・ゴッホ	オリーヴ畑と実を摘む人々	1889年12月、サン＝レミ	73.3×92.2cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
116	フィンセント・ファン・ゴッホ	草むらの中の幹	1890年4月後半、サン＝レミ	72.5×91.5cm	キャンヴァス / 油彩	KMM
117	フィンセント・ファン・ゴッホ	アイリス	1890年5月、サン＝レミ	92.0×73.5cm	キャンヴァス / 油彩	VGM
118	フィンセント・ファン・ゴッホ	麦の穂	1890年6月、オーヴェール＝シュル＝オワーズ	64.5×48.5cm	キャンヴァス / 油彩	VGM
119	フィンセント・ファン・ゴッホ	療養院の庭の木々	1889年5月最後の週-6月最初の週、サン＝レミ	47.2×61.5cm	ピンクの簧の目紙 / 鉛筆、革ペンと茶色がかった緑のインク	VGM
120	フィンセント・ファン・ゴッホ	掘る人などが描かれたスケッチ	1890年3-4月、サン＝レミ	23.8×31.9cm	網目紙 / 黒チョーク	VGM
121	フィンセント・ファン・ゴッホ	家のある風景と踏みぐわを持つ女	1890年5月最後の週-6月最初の週、オーヴェール＝シュル＝オワーズ	44.5×27.5cm	簧の目紙 / 鉛筆	VGM
122	フィンセント・ファン・ゴッホ	ガシェ博士の肖像	1890年6月15日、オーヴェール＝シュル＝オワーズ	18.0×14.7cm	簧の目紙 / エッチング(赤紫色の刷り)	VGM
123	フィンセント・ファン・ゴッホ	ガシェ博士の肖像	1890年6月、オーヴェール＝シュル＝オワーズ	18.2×15.0cm	網目紙 / エッチング	KMM

【展示期間のご案内】 ◎95番・◎96番 1月1日(土・祝)～1月16日(日)までの展示。  
◎97番・◎98番 1月18日(火)～2月13日(日)までの展示。

※本展図録に掲載しております 99番 ポール・ゴーギャン《ポン＝ダヴェン村近の風景》は、所蔵先の都合により、九州国立博物館には出品されません。